

令和 8 年 7 月 17 日

第一回大野城市総合教育会議資料

『学び合い』がつなぐ子どもたちの未来 ～なぜ、『学び合い』か～

大野城市教育委員会 教育長 元主 浩一



今日の問い

- 子どもたちが抱える悩みや課題は、教師（大人）が生み出してないか？
- 喫緊の課題の「不登校」を生み出さない授業づくりとは？
- 子どもたちの未来に、私たちは何を残せるのでしょうか？



本時の流れ

1. 今日的な教育課題と大野城市
2. 子どもの気持ちを考える
3. 『学び合い』とは
4. 子どもたちの変容
5. むすび

01

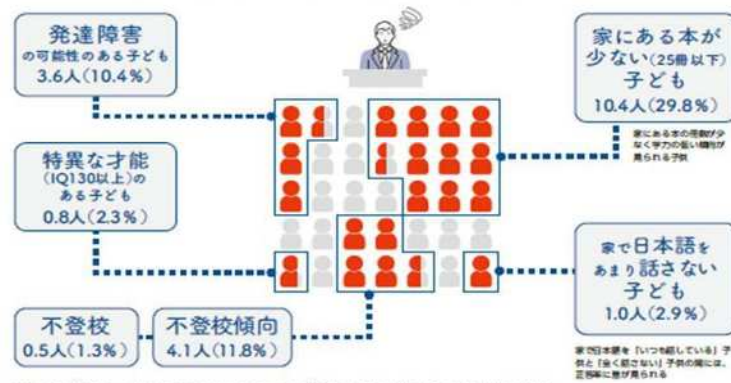
今日的な教育課題 大野城市の現状

01 今日の教育課題

教室には多様な子どもが集まっています

子どもの多様化が進んでおり、下記のように数字として表れる子ども以外にも、授業の理解度に差があったり、学びやすい方法もそれぞれ違ったりと、子どもはみんな違います。

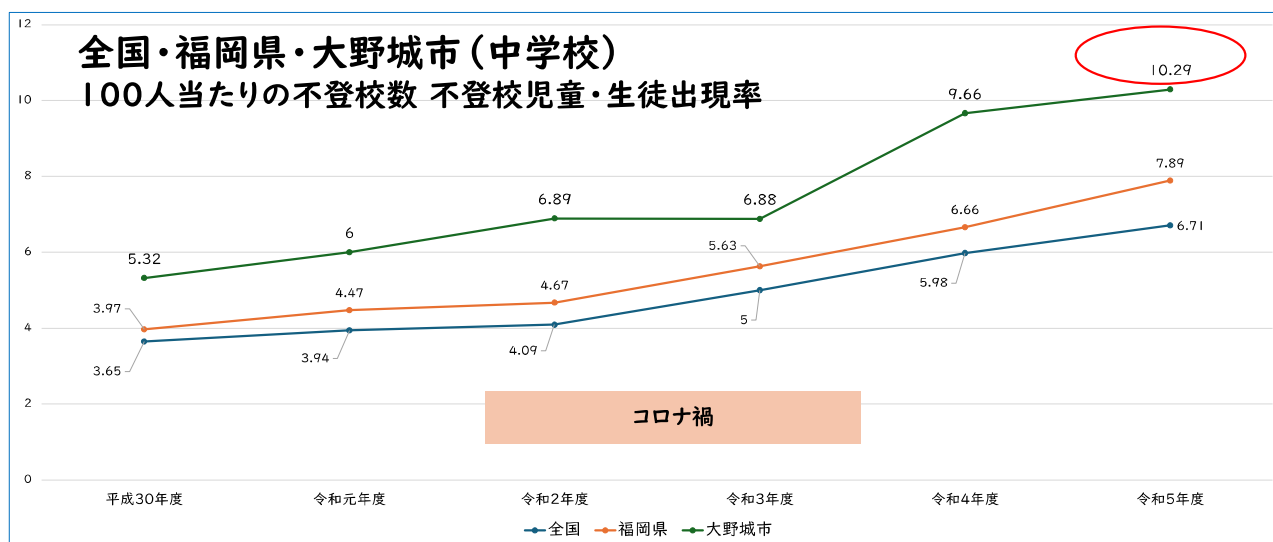
小学校 35人学級の場合
(全国値)



01 不登校の比較

全国的に年々増加:35.4万人

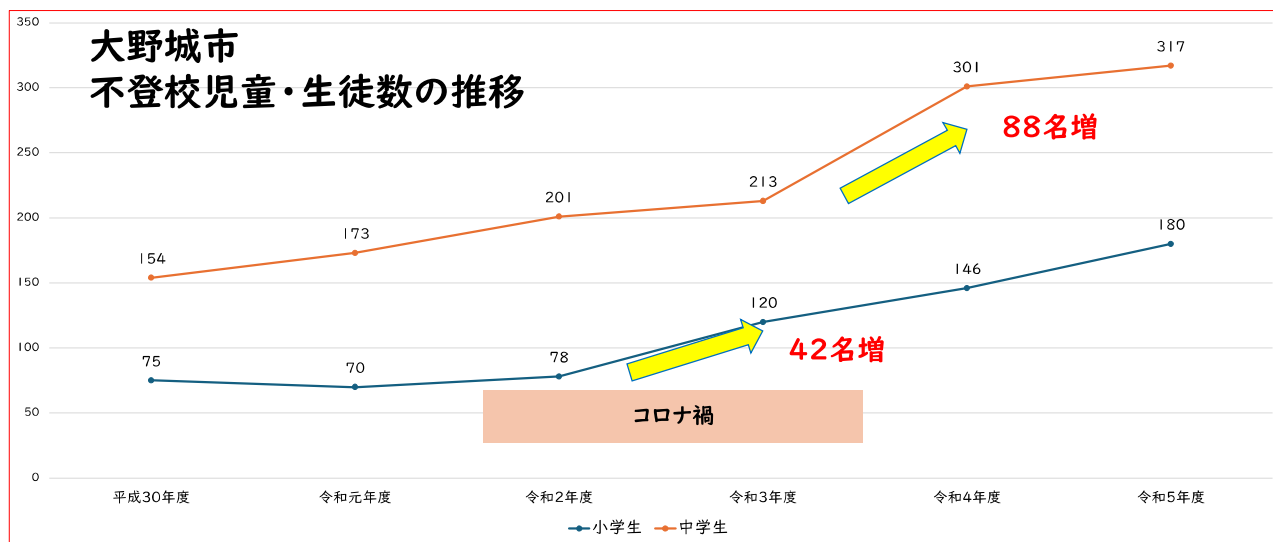
地域を超えて増加・小学生が顕著に増加



01 大野城市の不登校の実態

全国的に年々増加:35.4万人

地域を超えて増加・小学生が顕著に増加



「不登校兆候」の子どもたち

不登校予備軍(指標の累計15以上):大野城市分

平成29年度 :小学校 46名 / 中学校 43名

令和6年度 :小学校 562名 / 中学校 168名

歩み 重ね 夢叶え
~Small Steps Light Your Way~

誰一人取り残さない学校づくり

なぜ、今「誰一人取り残さない学校づくり」なのか
～皆さんと一緒に考えたいこと～

- なぜ、不登校は減らないのか
- それは子どもの問題なのか
- 大人は、子どもを理解できているのか
- 学校は「安心できる場所」なのか
- 学校生活の大部分を占めるものは何か
- 「授業」は居場所になっているのだろうか

「不登校」それは・・・

- 心の問題
- 家庭の問題
- 性格・特性の問題

??

不登校は「学校システム」とのミスマッチである
～学校が、教師が生み出したもの～

- 授業の受け方
- 評価のされ方
- 集団のあり方

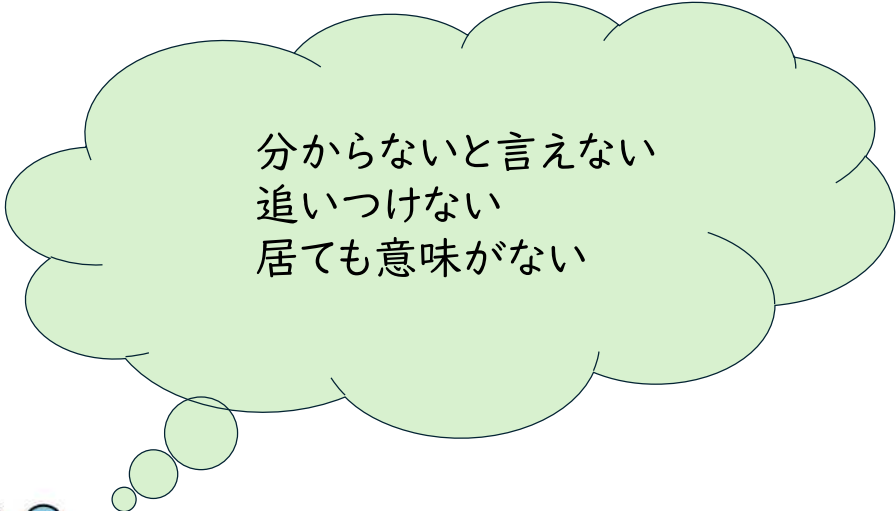
子どもたちは苦しんでいないか

- 毎日同じことの繰り返し
- 長時間の授業

「授業」の実態

- 何でもそろえる
- 進度は一律
- 評価は比較

→ わかる子中心・やらされ感



分からないと言えない
追いつけない
居ても意味がない



「不登校」は「授業」からはじまる

- 小さなつまづき
- 小さな孤立
- 少しずつ積み重なる

「授業を変えること」



「不登校対策」

どんなふうに「授業」を変えるのか

「授業」づくりの考え方

- そろえない
- 信じる
- 任せる
- 放置しない

*そろえないことと、放置することは全く違う

目標は「全員達成」

「できる子を増やす」から



「誰一人取り残さない」へ

「学び合う」構造をつくる

教師が「教え込む」から



子ども同士「学び合う」構造へ

集団を「全員達成」のためとする

「競争する集団」から



「支え合う集団」へ

支え合う集団ができると・・・

- 役割が生まれる
- 居場所ができる
- 自己有用感が生まれる

- 最初はうまくいかない
- 教師は不安になる
- それでも続ける

***子どもを信じる**

- 声掛け合う・協力する
- 見捨てない文化が自然に育つ

＊誰も一人にしない授業が少しずつ当たり前



『学び合い』

「誰一人も取り残さない」授業の再設計

02 『学び合い』とは

02 『学び合い』とは ◆理念

学校観

学校は多様な人と折り合いをつけて
自らの課題を達成する経験を通して
その有効性を実感し
より多くの人が自分の同僚であることを学ぶ場

子ども観

子どもたちは有能である

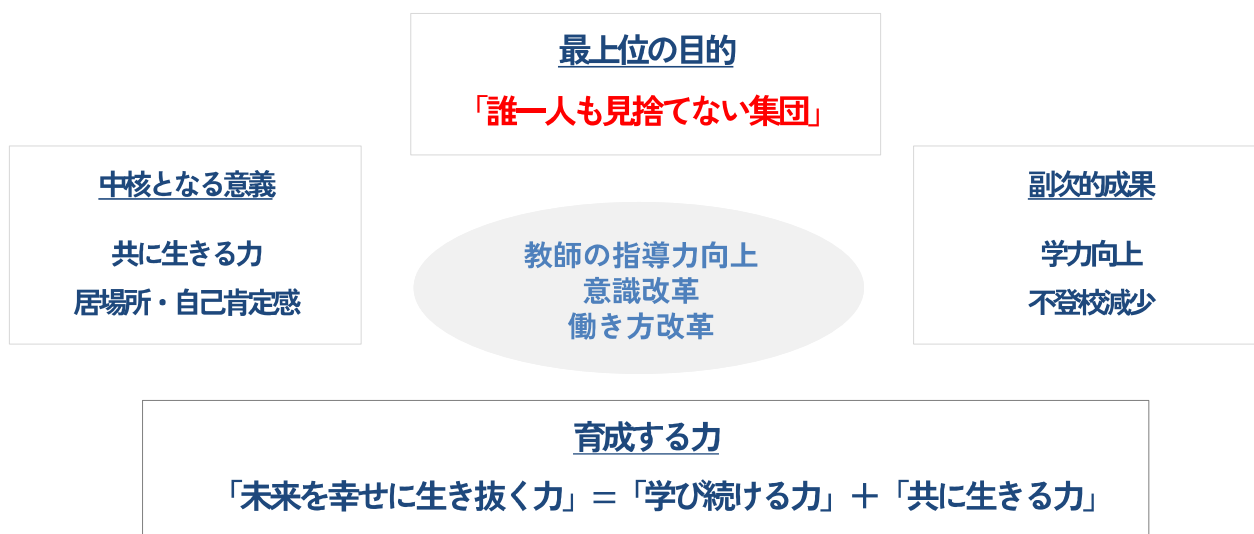
一人の教師より、子ども
集団の方が優れた指導者

授業観

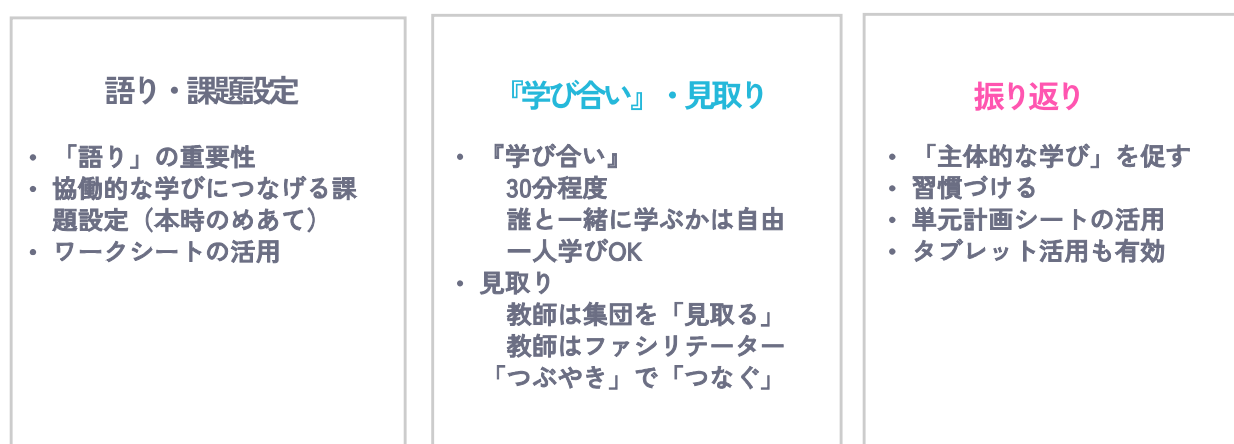
教師の役割は
環境の整備、課題の提示、評価のみ

教授（子どもたちから見れば学習）は
子どもに任せるべき

02 『学び合い』とは ◆ 目的



02 『学び合い』とは ◆ 授業の流れとポイント



1. 教師による「語り」「課題提示」



2. 小グループの形成



3. 大グループへ移行



4. 振り返り（自己評価・小テスト）



『数学自己評価表』 1年 姓 名 ()

科目	単元	単元名	単元番号	単元評価	自己評価	教師評価
数学	1-1	数と式	1-1-1	数と式の関係	数と式の関係	数と式の関係
数学	1-2	図形	1-2-1	図形の性質	図形の性質	図形の性質
数学	1-3	関数	1-3-1	関数の性質	関数の性質	関数の性質
数学	1-4	確率	1-4-1	確率の性質	確率の性質	確率の性質
数学	1-5	幾何	1-5-1	幾何の性質	幾何の性質	幾何の性質
数学	1-6	統計	1-6-1	統計の性質	統計の性質	統計の性質
数学	1-7	総合	1-7-1	総合の性質	総合の性質	総合の性質
数学	1-8	総合	1-8-1	総合の性質	総合の性質	総合の性質
数学	1-9	総合	1-9-1	総合の性質	総合の性質	総合の性質
数学	1-10	総合	1-10-1	総合の性質	総合の性質	総合の性質

※自己評価：1～5段階で評価する。1が最も低い評価、5が最も高い評価。教師評価は、自己評価の結果を参考に、適切な評価を行う。

※自己評価の記入方法：自己評価の欄に、自己評価の結果を記入する。自己評価の結果は、自己評価の欄に記入する。

※自己評価の記入時期：自己評価の欄に、自己評価の結果を記入する。自己評価の結果は、自己評価の欄に記入する。



02 『学び合い』とは ◆教師の意識改革

「教える」教師
から
「支援する」教師

- ・伴走者
- ・ファシリテーター

働き方改革

学びを「そろえる」
から
学びを「つなぐ」

「任せる勇氣」

許す・信じる・待つ

＜学力観の転換＞

非認知能力
コミュニケーション力
自己肯定感
自己調整力
協働力
主体性

03 子どもたちの変容

03 子どもの変容



- 必ず学力は向上する、最低点の向上
- 仲間と「つながる」ことでの内面の変容
 - ・非認知能力、コミュニケーション能力、自己肯定感
 - ⇒ 内面の成長が学力向上に繋がる
- つながりが深まる（生徒と生徒、生徒と教師）
 - ⇒ 学校経営・生徒指導の実践に有効性が高い
- 不登校・いじめの減少
- 「学校が楽しい」「授業が面白い」という子どもたちが増加
 - ⇒ 不登校を生み出さない授業

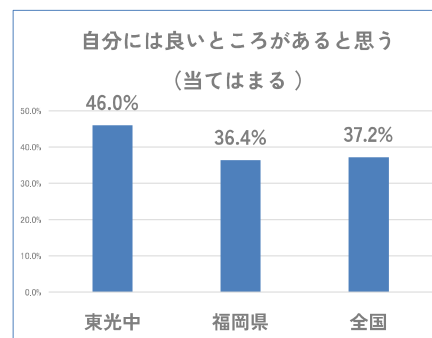
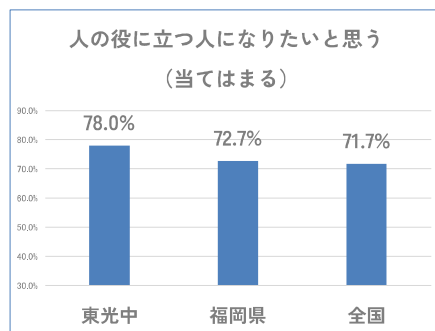
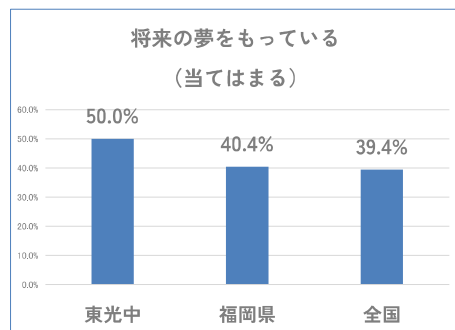
03 子どもの変容

不登校生徒数の推移	
2014年度	8名（→9名）
2015年度	9名（→5名）
2016年度	5名（→2名）
2017年度	2名（→0名）
2018年度	0名

福岡市立東光中学校 （2014～2018）

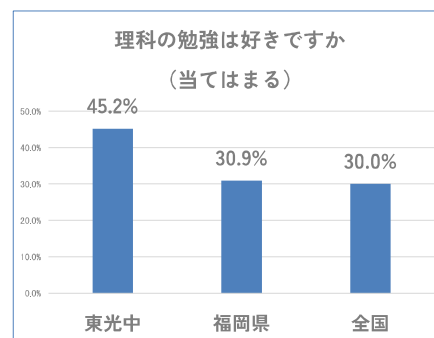
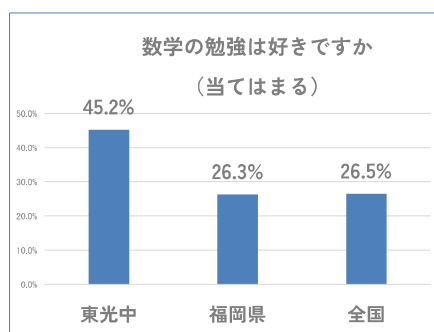
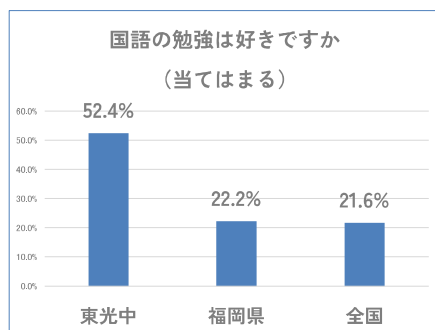
03 子どもの変容

・全校学力・学習状況調査 生徒アンケートより（2025 福岡市立東光中学校）



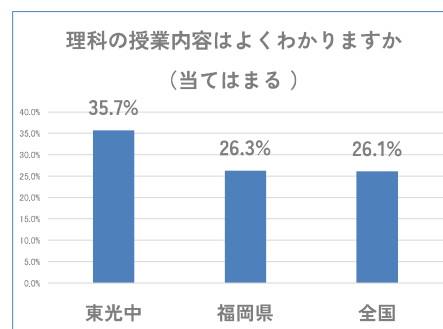
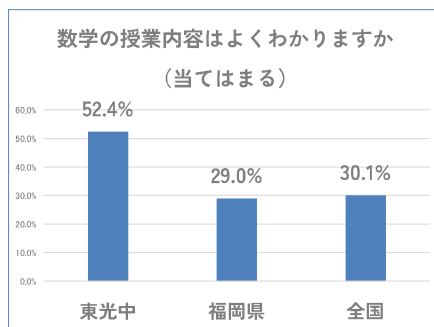
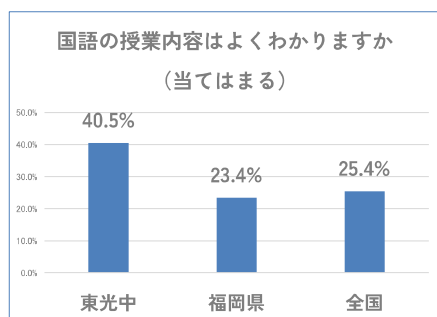
03 子どもの変容

・全校学力・学習状況調査 生徒アンケートより（2025 福岡市立東光中学校）



03 子どもの変容

・全校学力・学習状況調査 生徒アンケートより（2025 福岡市立東光中学校）



04 「個別最適」と 「協働的」な学びの共創

04 ◆ 令和の日本型教育



個別最適な学び

【目的】

- ・ 知識・技能
- ・ 自己調整力
- ・ 自己肯定感

【手法例】

- 自由進度学習
- パフォーマンス課題
- デジタル振り返り



協働的な学び

【目的】

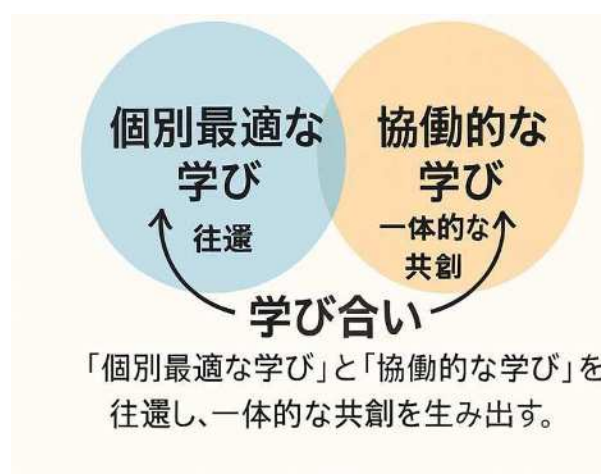
- ・ 仲間とつながる
- ・ 課題解決
- ・ コミュニケーション力

【手法例】

- 『学び合い』
- グループ討議
- 探究的学習

04 ◆ 『学び合い』がつなぐ未来

- ・ 個別最適で「自分で学ぶ力」
- ・ 協働的で「他者と共に学ぶ力」
- ・ 往還的に行き来することで
学びが進化・共創を生む
- ・ 自分×他者 = 未来を生き抜く力



04

◆ 理論的裏付け

【理論】

- ・マズローの5段階欲求と『学び合い』の関連性
- ・ヴィゴツキーの発達の最近接領域（ZPD）
- ・ニア・ピア・ラーニング

【実践的エビデンス】

- ・自己肯定感の向上
- ・不登校・いじめの減少
- ・学力向上

幸せの共創



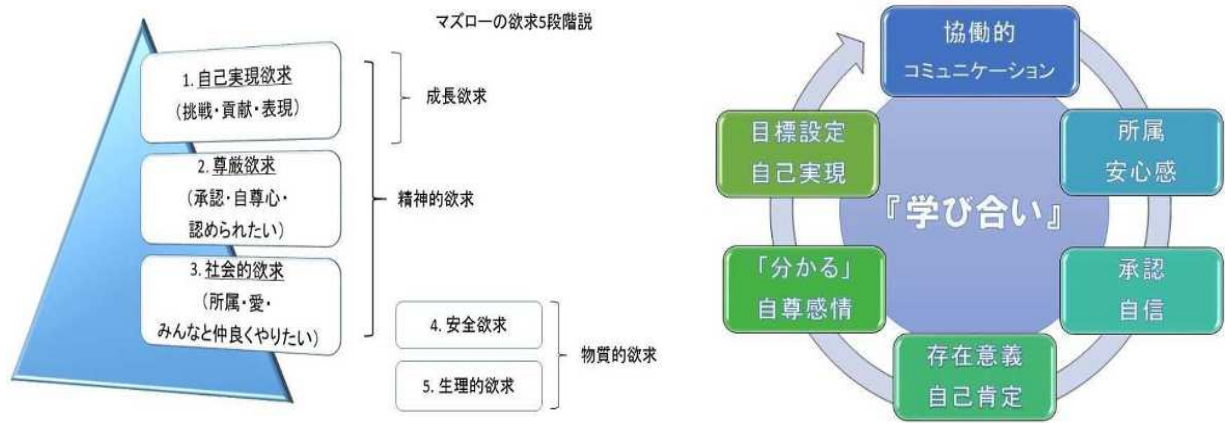
04

◆ 『学び合い』と協働的コミュニケーション



- 相互利益のための 協働的アプローチ
- 双方の目的を明確にし、どちらも利益を得る

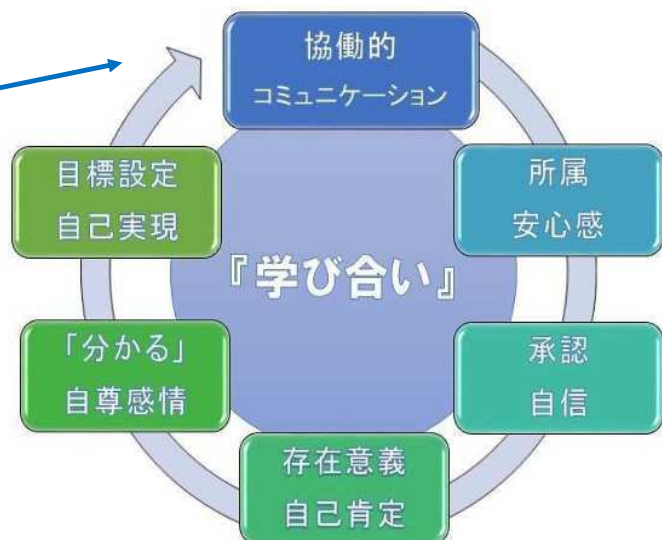
04 ◆ 「マズローの欲求5段階説」と『学び合い』 比較



04

協働的コミュニケーション

「学び合い」の起点と終点には必ずコミュニケーションがある。助け合い、協力し合い、自分の意見を相手に伝える、または相手の話に耳を傾ける、「協働的なコミュニケーション」がそこには必ず存在する。

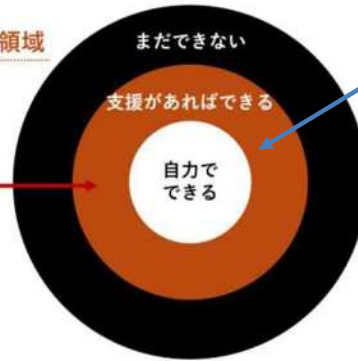




04

◆ 発達 の 最近接領域 (ZPD)

発達 の 最近接領域

『学び合い』
Near Peer Learning

- ・ 子どもが一人ではできないが、外部の助けがあればできる物事の領域
- ・ ヴィゴツキー（ソ連の心理学者）が提唱

05

む す び に

05

『学び合い』で未来の幸せを
そろえる から つなげる へ



05

- 子どもたちに「任せる勇気」を持つことこそが
私たち教師の最大の役割です
- 子どもたちの幸せな未来は、子どもたち自身が
仲間と共に創っていきます
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を
『学び合い』で往還しながら共創していきます





THANK YOU

ご清聴ありがとうございました。